

GitHubでも公開中！ この研究に火を灯してくださった藤井さんへ感謝を込めて、
“最高すぎる”構文に関する語用論的分析記録を共有いたします。
以下のQRコードから、専用リポジトリへアクセスできます：



つまり、言葉の沼は笑いと論理の両方で掘れるということです。